

ほっとまちフェスタ

部会・プロジェクト事業の活動を知る



部会やプロジェクト事業活動の報告を見る来場者



2018年12月(平成30年)

発行 桔梗が丘自治連合協議会

連絡先 桔梗が丘市民センター

TEL 65-1206

FAX 65-1206

Eメール info@kikyogaoka.jp

5,761世帯・13,779人

(2018年11月1日現在)

桔梗が丘自治連合協議会の活動を披露して、これからの桔梗が丘を知ってもらい活動に参加を誘う「ほっとまちフェスタ第3回」が、11月4日に桔梗が丘市民センターとききよう農楽園で開催された。

行事のトップは快適環境部会主催の「ぶらり街歩き・史跡めぐりと生き物ウォッチング」が午前9時、傘を携行して桔梗が丘西のこども支援センターかがやきを出発した。

ききよう農楽園で行事が続く。10時、採れたて野菜の収穫祭。11時、桔梗が丘みどりの会が「植樹祭」。トチノキの植樹と秋の七草オミナエシの植栽を行った。11時半からは早朝から準備した豚汁・焼き芋がふるまわれた。

桔梗が丘市民センターのギャラリーでは、午前10時から同自治連合協議会の部会やプロジェクト事業の説明が始まった。部会健康推進、住民交流、教育文化、生活安全、快適環境、地域福祉の6部会とプロジェクト事業部「ほっとまち茶房ききよう、子どもたちと地域の絆づくり、みどり環境整備保全、ききよう農楽園、桔梗が丘お助けセンター」などの活動が掲示された。

場内の各部屋で様々の行事が開催された。教育文化部会が子どもの遊び広場を開催。形の不思議、いらいら迷路、折り紙で作る万華鏡の工作を楽しんだ。別の部屋では近畿大学工業高等専門学校の学生の説明で、スライム・消しゴム作りを体験、小型ロボットの実演で科学を楽しんだ。

健康な生活にと、健康部会による健康リズム体操、地域福祉部会による脳の活性化で

名張市社会福祉大会

桔梗が丘7団体が

ボランティア功労

名張市社会福祉協議会主催で毎年恒例の名張市社会福祉大会が10月6日アドバンスコーパドスホールで開催された。第48回。4百名が入場した。

大会宣言のあと、社会福祉活動に功労のあった個人と団体の表彰があった。その中でボランティア功労は、多年にわたり社会福祉に関するボランティア活動を継続して行い、社会福祉の増進に貢献されたとして贈られる。桔梗が丘から次の皆さんが表彰を受けた。

いつまでも若くと説明に耳を寄せていた。

桔梗が丘の風景を撮影した力作の写真がロビーに展示されていた。飴のつかみ取りは年齢を問わず人気があった。

午後からの入場者は、プロジェクト事業部「ほっとまち茶房ききよう」による「歌声喫茶」で愛唱歌を口ずさんだあと、5人のアマチュア落語家での「ほっとまち寄席」で大笑いだった。

桔梗が丘3番町婦人会「高齢者サロン」で食事を提供する等のボランティア活動。

桔梗が丘自治連合協議会・住民交流部会「桔梗が丘地区を活性化する活動」。

桔梗が丘2番町いきいきサロン「高齢者対象のサロン運営」。

桔梗が丘南小学校図書ボランティア(5番町)「図書室の運営支援や読みかせ等の活動」。

ときめきサロン(8番町)「高齢者対象のサロン運営」。

南ふれあいサロン(南4番町)「高齢者対象のサロン運営」。

ろくまるフレンドサロン(6番町)「多世代を対象としたサロン運営」。

組織で防災計画の作成

教育と訓練の有無は対応に大きな違い

生活安全部会が防災講座2

本紙前号(第90号)で「南海トラフ大震災がやってくる!防災について考えよう」と題した講演の内容を、講師・竹森喜慶さんのご厚意で掲載しました。前号では、

1 地震対策としては「家具の転倒防止」、「家屋の耐震補強」が必要で
2 地震発生後の活動に自助
3 平素の心掛け
のタイトルで自分の身の安全を守る自助が中心でした。

本号では災害時の「共助と公助」、避難について学びます。

4 地震発生後の活動に共助、公助

(1) 共助とは、隣・近所の人と共に協力し合い、助け合うこと。

(ア) 隣・近所の人のお年寄り、「高齢者夫婦の世帯」、「身体に障害を持つておられる方」のご家庭を優先に安否確認を行って手を差し延べる。
(イ) 出火した場合は、協力し合って燃焼拡大を防止する。

* 消火器、消火用水を持ち寄って、燃焼拡大を防止する。

* 出火直後では、バケツに一杯の水があれば非常に効果的

* 断水に備えて、玄関先にバケツに水を入れて備えておく

と、近所の方も使うことができるので、非常に効果的

「高齢者や子どもは、みんなで助け合う、協力し合う」。そうした地域の絆が求められる。

(2) 公助とは、消防、警察、自衛隊等の公的機関の援助を言う。

今年の4月23日の朝刊で発表された内容によると、和歌山や高知など西側7県からは、援助隊を出動させないことが発表された。

理由は、中央防災会議が、三連動地震が発生した時の最大規模を想定しているためで、南海トラフによる巨大地震について、総務省消防庁は、東海地震が発生した場合、西側に当たる和歌山や高知など7県からは、西側での態勢が手薄になることから、緊急消防援

助隊を原則として出動させないことが決められた。

従って、「自助」、「共助」の地域が一体となった協力体制が如何に重要であるかがうかがえる。

5 避難

「グラツ」と来たら直ぐに避難するのは、非常に危険。揺れが収まってから落ち着いて避難するのが安全。

(1) ブロック塀からは、離れて避難する。補強されていないブロック塀は、震度5弱で倒れる可能性がある

(2) 落下物に細心の注意を払うことが必要。激しい揺れや余震によつて、瓦、看板、壁体(へきたい)等が落下する危険性がある

(3) 電柱の倒壊と電線の垂れさがりに注意する。電柱が倒れて、通電している電線が垂れ下がる場合がある。また足を引っ掛けて転倒・負傷する危険性と感電する危険性もある。こうした危険な場所からは遠ざかること

(4) 避難をする時には、避難先を明示しておくことも必要。身内の方が訪問された時に、「〇〇に避難します」とか「家族は全員無事です」などを玄関先に貼り紙をしておく

とによつて、身内の方は安心することができ早く会うことができる。

(5) 土砂災害に注意する。地震の揺れによつて、地盤が緩んで「崖崩れ」、「地滑り」が起る危険性がある。土砂災害の前兆には

* 山、崖の上から小石がコロコロと落ちてくる

* 山の斜面から水が噴き出す

* 山の上から濁った水が流れてくる

* 斜面に亀裂が起る

* 地鳴りのような異常な音がある

この様な現象があった時には、絶対に近づかない。自宅周辺で、この様な現象が発生した場合には、避難すること。

自分や家族の身の安全を守るために、行政からの指示を待つのではなく、自分たちで判断して、「早い目、早い目」に避難を開始して「避難勧告」や「避難指示」が出た時には、避難を完了していることが大事なことである。

早い目に行動することによつて「助けられる人」から「助ける人」になる。そしてこの行動が共助に繋がって、被害を軽減することができる。「避難指示」とか「特別警報」

が発表された時には、既に災害が発生している状況で有る。

伊賀建設事務所からの依頼で、先月から来年2月末にかけて「桔梗が丘5番町、8番町、南4番町」の土砂災害が発生する恐れがある土地の地形と利用状況についての調査がある。

その近くにお住まいの方は、この調査結果をよく確認しておくこと。自分が住んでいる場所の地形、特に崖崩れ、地滑りなどの危険性を知っておくことが大切。

6 避難所での注意事項

(1) デマ(流言)に惑わされないこと。

平成30年6月の大阪府北部地震のとき、避難所で流れたデマもつと大きな地震が発生する。シマ馬が逃げ出した。京セラドーム(大阪ドーム)の屋根が壊れたなどがあった。

テレビやラジオ、行政からの正しい情報を入力して、デマと思われるような情報に惑わされることが無いようにすることが必要。

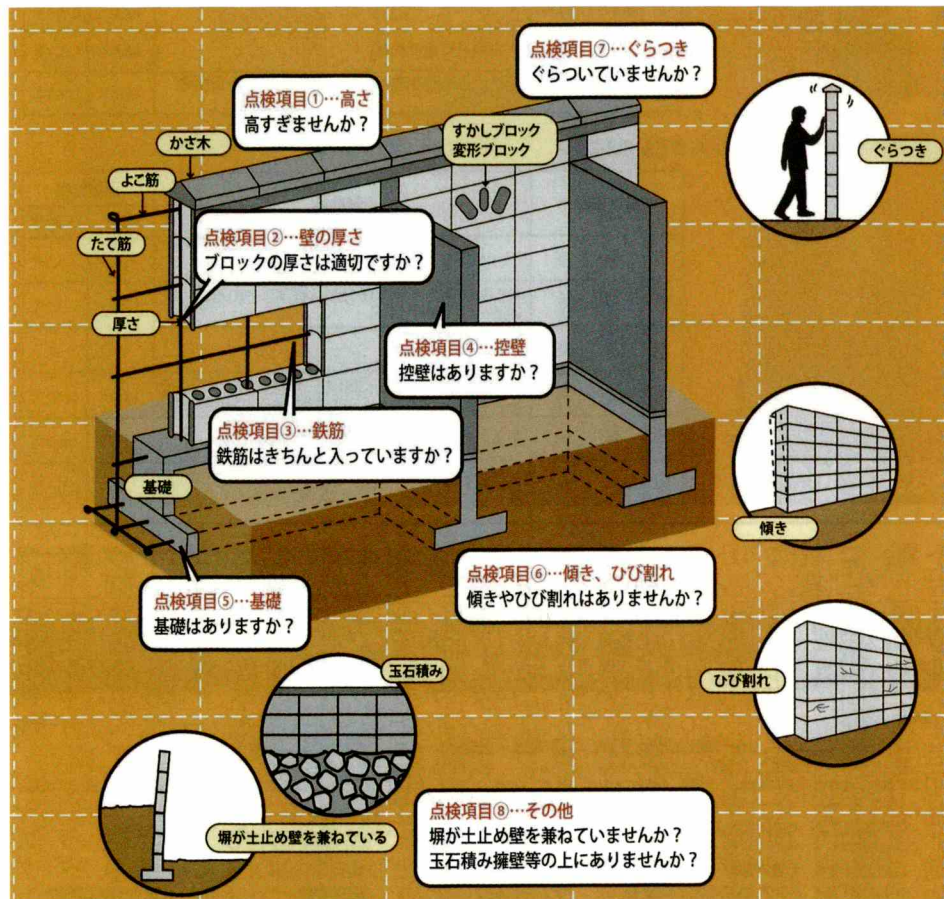
(2) 協力し、助け合う。

避難所では理解し合い、協力し合い、助け合うことが最も大切。

ブロック塀の点検項目で安全を確保しましょう

平成30年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震(M6.1)では、ブロック塀の倒壊が発生し、改めて基準を満たさないブロック塀の危険が認識されています。ブロック塀には、法律で定められた基準があり、その安全性の確保は所有者の責任です。

資料提供:大阪府摂津市。本紙が編集しました。



7 組織としては、防災計画の作成が必要

防災計画を作成する要点は次の通り。

- ①住んでいる地域で過去に発生した災害と、他の地域で発生した災害を教訓にする
- ②各区の実情から、どこでどのような災害が発生するかを予測・検討する

- ③予測・検討した災害に対する対応策を樹立する
 - ④対応策で定期的に訓練を行い、その防災計画が機能するかどうかを検証することが必要
 - ⑤そして検証で不備があった部分については見直しをする
- これを繰り返すことによって、機能する防災計画と組織活動ができるのではないかと

思っています。

組織の活動について「空振り」は許されますが、「見逃し」は許されません。疑わしき時には、行動することが大切。防災教育と訓練は行うのと、行わないでは、災害発生時の対応に大きな違いがあります。継続して行うことが必要です。

(完)

未来の森林はこの子らで 桔梗小4年生94人が 東山ふれあいの森で学習

桔梗が丘小学校4年生94人が10月30日、本紙の前号で紹介した東山ふれあいの森で「森林環境教育」を学習した。

この教育は、森林での様々な体験や活動等を通じて、森林と人々の関係を深めようという国が推進している。三重県は平成26年4月から「災害に強い森林づくり」や「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めていて、学校等の実地をサポートしている。

開催に向かって地域が動いた。桔梗が丘自治連合協議会からプロジェクト事業「桔梗が丘子どもたちと地域の絆づくり」(桔梗が丘みどりの会)と「快適環境部会」が活動。桔梗が丘小学校、PTA、校区自治会らも加わって70人がボランティアスタッフを担った。前日まで散策道の整備、コース案内板設置、樹木の名札の取り付け、クイズの準備などを整えた。当日は安全確保で児童らを見守った。

児童94人が校庭に集合し、主催者から今日の行程の説明や安全訓話を受け3台のバス

で現地東山ふれあいの森に向かった。

到着して10人単位で9班を編成、リーダーを選出して、5分おきにスタート。出発を待つ間に危険予知クイズの説明を受けた。散策では樹木の名前を記録するなどリーダーが班員を先導していた。自然の尊さ、散策の楽しさ、クイズなどで森林環境を学び約4キロ、3時間の学習を児童らは満足していた。

桔梗が丘には桔梗の森公園をはじめとする大きな森や池が住まいの近くに有り、住民の生活を和らいでくれている。この環境を守り続けるには次世代の力にかかっている。地域の3小学校は毎年交替で東山ふれあいの公園での森林を学習していて昨年に南小が実施し来年は東小が予定している。



森林の記録をする児童たち

1年間の学習成果を披露
舞台発表26作品展示29サークル

桔梗が丘市民センター祭

趣味を楽しむ人らが桔梗が丘市民センターで研鑽した成果を、地域の皆さんに披露する「桔梗が丘市民センター祭」が10月27日から2日間にわた

り開催され多くの人が観賞に訪れた。今年も青少年が語る「こころの思い」第22回に、小学生9人中学生6人が将来、自分、家庭などをテーマに発表した。

センターで学ぶサークルは市民センター84、南市民セン



展示の作品

発表26、作品展示29のサークルが1年間の成果で入場者を

楽しませた。発表と展示のサークルは以下の皆さん。

【舞台発表】大正琴Ⅱ大正琴み

すぎ会、社交ダンスⅡ桔梗が丘ダンスクラブ、扇舞Ⅱ扇和会、歌謡Ⅱ桔梗が丘クラブ、謡曲Ⅱ桔梗が丘謡曲同好会、なぎ

なⅡ名張市なぎなた協会、太極拳Ⅱ桔梗が丘太極拳クラ

ブ、吹奏楽Ⅱ伊賀シンフォニックアカデミー吹奏楽団、新舞踊Ⅱ壽永会、歌謡Ⅱ桔梗が丘歌謡クラブ、ダンスⅡリ

秋桜。

【作品展示】刺繍展示Ⅱ和らぎ会、手編みニット作品Ⅱニッ



舞台での発表

トサークル、手芸用品Ⅱ動物ポンポンの会、絵手紙(額入り)絵手紙・花ごのみ、活動報告・作品展示Ⅱ松阪友の会、アイロンプリントⅡイルカパソコンクラブ、学習内容発表Ⅱ書画・絵手紙サークル(すみれ)、水彩画Ⅱ現代アートマルマルクラブ、水墨画Ⅱ桔梗水墨画クラブ、陶芸作品Ⅱ桔梗が丘陶香クラブ、身近な言葉・詩歌の作成Ⅱ詩書を楽し



こころの思い発表会

む会、チュニツク・コート・ブラウス・他Ⅱ桔梗が丘ソーイングクラブ、活動内容の報告Ⅱ万葉の会、学習の内容Ⅱ萌黄、会員の百人一首作品Ⅱ若菜会、山口華楊作品集Ⅱ絵画教室・彩の会、園児の作品Ⅱ桔梗南幼稚園、短冊と添削ハガキⅡ純の句会、ハガキ絵Ⅱ絵手紙さくら、書色紙・半紙その他Ⅱ桔梗が丘書道クラブ、レリーフ・創作生花Ⅱ生花クラブ、水彩・油彩・アクリル画Ⅱ桔梗が丘絵画クラブ、掛軸Ⅱ紫雲会、水彩画Ⅱスケッチ100万歩、色紙・短冊Ⅱさくら句会、陶芸作品Ⅱ陶楽会、陶芸作品Ⅱ桔梗が丘陶友クラブ、写真集Ⅱパソコンクラブきらら、陶芸作品Ⅱ桔梗が丘陶友クラブ。

桔梗が丘自治連合協議会行事一覧表

平成30年12月～平成31年1月

月	日	曜日	行 事	主 催
12	3	月	桔梗の森公園クリーン活動	快適環境部会、みどりの会
	4	火	スクエア ステップ	健康推進部会
	8	土	桔'ザセミナー	教育文化部会
	18	火	ききょう なかよし広場 スクエア ステップ	地域福祉部会(民児協) 健康推進部会
H31/1	7	月	リズム体操	健康推進部会
	8	火	スクエア ステップ	健康推進部会
	12	土	冬の生きものウォッチング	快適環境部会
	13	日	ハッピーニューイヤーききょうフェスタ	住民交流部会、教育文化部会、民生委員
	15	火	ききょう なかよし広場 スクエア ステップ	地域福祉部会(民児協) 健康推進部会